

是彼員会

宇和島シーズンワーク

中川啓造（会員）

宇和島シーズンワークは不思議な縁から始まりました。

宇和島は、四国愛媛の西の海に位置し、人口8万人弱の都市です。そこは予讃本線の終着駅に当たりますが、全国に誇るべき物が3点あります。

それは真珠ならびに鯛の養殖の生産高、そしてミカンの生産量がいずれも日本一なのです。

そんな宇和島と縁ができたのは、ほんのちょっとしたきっかけです。

今から50年近く前、神奈川県伊勢原市にあった、とある断食道場に入寮した折、一緒に修養していた女性から宇和島には日本一の和菓子屋があると、話を聞き及びました。その店の名前が確か清水屋と聞き、ある日突然想い出しネットで宇和島を

検索していた際、移住体験住宅の案内が出てきました。

お菓子屋名は分からなかったけれど、どんな所かという好奇心から行ってみることに決めました。

1か月の家賃がわずか4300円という安さも相まって早速担当部署へ申し込み、初めて愛媛県の地を踏みしました。

1か月弱暮らしてみると住みやすいので、そのまま限度一杯の3か月まで延長して滞在しました。

そうするとここが気に入ったのですが、体験住宅の利用規定により住めなくなりました。どうしたものかと思つて再度宇和島市役所のホームページを開くと、シーズンワークという記事が見つかりました。

それはウーフという援農制度で、自分の労働力を提供する代わりに、食、住の面倒をみてもらうという内容でした。より具体的には、猫の手も借りたいほどの忙しい時季、夏の



シーズンワーク夏

摘果作業、秋の収穫作業時に3泊4日の日程で、単に農作業をするだけではなく、農家に泊り込み、食事を含めた「丸ごと農家」体験という触れ込みでした。

宇和島市役所の担当者が、その方面の先端地域である長野県の飯田市へ視察に行き、りんご農家のウーフ制度を、宇和島の特産であるミカンに応用して始まった制度でした。

日程は、夏は海の日前後を挟んだ金曜日午後から月曜日午前中まで、また秋は勤労感謝の日前後を挟んだ金曜日から月曜日までと、同じ時間帯で組まれ、3泊4日の日程で行われました。

第1日目金曜の午後1時に全員集合して簡単な対面式を終えた後、各自が受入れ農家に散らばり、各農家の指示に従って農作業を行い、4日目午前中の作業後、三々五々解散するという内容でした。この間2日目の夜、参加者・受入れ農家が全員集まって交流会が持たれ、お互



シーズンワーク夏

参加者は農家の受入れ体制にもありますが、多い時で50名ほど、少ない時で20名ちょっと、という実績だったそうです。

この催し物は2008年を初年度とし、2017年度の10周年を一区切りとして発展的解消をして、次の事業に引き継がれました。

僕は2011年度秋の収穫作業から参加し、間1回の欠席を挟んで都合12回参加しました。中には皆勤者も1人いて、僕は彼に次いで2番目の多参加者でした。

この間、受入れ農家は6軒に及び、最後の農家さんとは相性が合い、そのまま無理をいってずーっと同じ農家にしていただき、今日まで及びました。今では「親戚付き合い」と同じような形になり、気が向いた時にはふらっと出かけ、彼の家を拠点にして農作業を手伝いながら田舎の生活を楽しんでいます。

僕は小学校5年生まで田舎で育ったので、農村の生活実感が

分かりますが、そこは「郷に入っては郷に従え」という言葉もあるように、普段の自分を捨

てて農村に入り込んだので、人の幅が広がり、得ることの多い体験となりました。

突然の西日本豪雨

宇和島シーズンワークは前年度に終わり、今年度の夏は親しくなったミカン農家に入り摘果作業をやろう、と考えておりま

した。7月に入りそろそろその準備

作業に取りかかろうとした折、台風7号がもたらした暖かく湿った空気が、西日本に停滞した梅雨前線に吹き込み愛媛県内に大雨が想定外に降りました。その結果、僕が行こうとした



吉田町奥浦



海に浮かぶ家・ミカンの木

吉田町は河川の氾濫や、浸水害、土砂崩れが至る所で起き「平成最悪の水害」となりました。ご多分にもれず吉田町のミカン畑にも多大な被害が起きました。

早速受入れ農家に連絡を取ったところ、自分のミカン畑には影響が殆んどなかったけれども、そこへ行く山道が何か所か崩れ通行不能になっているとのこと。

目的であるミカンの摘果作業のため通行できる畑に入り従事しました。

今回は土嚢の運搬という初めての体験のほかに、災害支援にいらしていた自衛隊の方が設置した風呂に毎晩入浴し、昼食は彼らが作ってくれた「炊き出し」を毎日いただきました。

終わりに被災地の1日も早い復興を願ってペンを置きます。

合掌

宇和島には当初予定通り7月20日に入り、その足で知人の車で被災地を案内してもらったところ、想像以上の被害でした。

翌日からは、本来の目的であるミカンの摘果作業は後回しにし、知人の知り合いから頼まれた床下に流れ込んでいた土砂の撤去作業に従事しました。

僕の役割は、慣れた方が床下にもぐって土砂を詰めた土嚢を床上で受け取り、それを軽トラックまで運ぶことでした。それを2日やったら、その家の清掃は目鼻が付いたので、当初の



喜佐方農協横県道



木野下久子さんのミカン園



玉津



吉田町立間大河内



吉田町立間医王寺下旧56号線